包括的な学校改善の視点：学校マネジメント、働き方改革

ＩＣＴを活用した教育の充実と業務の効率化を推進する学校モデル

中核校	網走市立網走小学校	指定校	網走市立南小学校、網走市立第一中学校 網走市立第三中学校

■　構築した学校モデルの具体

○　ＩＣＴを活用した教育の充実

・日常的な１人１台端末の活用により、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図る。

・校務 DX と授業 DX の一体的な充実により、教員のＩＣＴ活用指導力等の向上を図る。

【日常的な１人１台端末の活用】

○　小・中学校の９年間で求められる資質・能力の育成

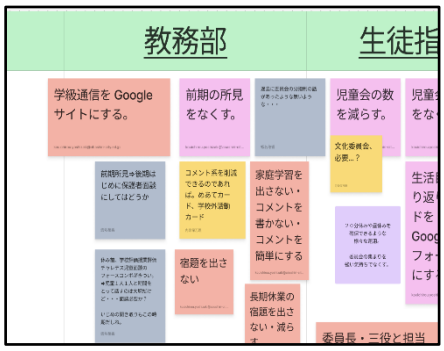
・中学校の全国学力･学習状況調査において、課題が見られる学習内容について、小・中学校が連携して授業改善を行う。

・Google Workspace を活用し、小・中学校間の授業交流日程の調整や参観シート及び年間指導計画を共有する。

○　「北海道アクション・プラン（第３期）」を踏まえた働き方改革の実施

・管理職や事務職員、各分掌の代表者等で構成するコアチーム会議を年間５回実施することにより、自校のアクション・プランを見直し、随時実行する。

・事務職員が学校運営に積極的に参画することにより、教頭業務の軽減を図る。



【改善・削減が必要な業務内容の共有】

■　学校モデルの構築に向けた取組の具体

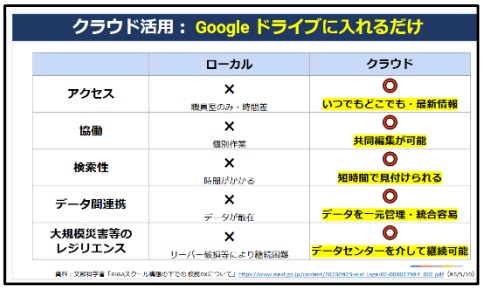
〔管理職の取組〕

・ＩＣＴを活用した各教科等の資質・能力の育成や、校務 DX の推進を教育活動や学校経営のテーマに掲げるとともに、年間を通じて取組を推進することができるようグランドデザインに位置付けた。

・１人１台端末を活用した授業改善や、ＩＣＴ活用指導力の向上を図るための校内研修会を実施した。

・Google Workspace の効果的な活用により、中学校区での連携を含めた校務 DX の推進が図られるよう、主幹教諭や事務主任を窓口として、取組の推進に向けた体制を構築した。

・Google for Education パートナー自治体サミットに参加し、先進的な取組や今後の方向性について情報を収集するとともに、地域協議会等を通じて働き方改革の推進と関連付けながら他校への波及に努めた。



クラウド活用：Google ドライブに入れるだけ

	ローカル	クラウド
アクセス	× 職員室のみ・時間差	○ いつでもどこでも・最新情報
協働	× 個別作業	○ 共同編集が可能
検索性	× 時間がかかる	○ 短時間で見付けられる
データ間連携	× データが散在	○ データを一元管理・統合容易
大規模災害等のレジリエンス	× サーバー破損等により継続困難	○ データセンターを介して継続可能

資料：文部科学省「令和スクール構想の下での校務DXについて」https://www.mext.go.jp/content/20230425-mxt_jyoho02-000023984_002.pdf（R6/5/10）

【校務 DX 化に向けた連携校との共有・推進】

〔専科教員・事務職員の取組〕

・ＩＣＴの活用により効率化が図られている中核校での取組を、専科教員が巡回指導先において、積極的に情報共有し、普及を図った。（専科教員）

・業務の効率化を推進するために、教職員の毎月の在校等時間を集計し、職員会議で提示するとともに、全教職員の在校等時間の平均をグラフで示すことにより視覚化し、効率化の実感を共有した。（事務職員）

■　各指定校への学校モデルの普及方策

・地域協議会において、網走市内小・中学校の教職員をオブザーバー参加で招聘し、実践内容を随時共有した。また、実践内容を基に専科加配教員が「学校力通信」を作成し、Google Workspaceを活用して網走市内小・中学校の全教職員にデータで配付した。

・網走市学力向上フォーラム及び網走市校長会議において、取組に係る実践発表を行った。